

れている手術室や救急・災害医療、人材育成の領域においても、最新の情報発信があり、大変興味深いシンポジウム・セミナーとなりました。新しい試みとして企画したフリートークセッション「急性期から、回復期へ、そして居宅(生活の場)へ—看護がつなぐ患者さんの人生」は、病院から後方施設へのシームレスな医療連携を考える良い機会となり、今後も継続した議論が必要と感じました。

ポスター会場・クリティカルパス展示会場にも多くの方が参加され、発表者と質問者が熱く議論を交わされている光景があちこちで見られ、主催者として大変嬉しく感じました。また、口演の一部会場では、立ち見の方が出るほど盛況でありました。いずれの演題も日頃の成果が現れた素晴らしいものでしたが、その中から学会賞(ポスター5演題、クリティカルパス2演題)を厳正な審査の下に選び、閉会式で表彰させていただきました。

今回の懇親会では、時間の有効活用のため学会会場を利用し、ケータリングによる立食という初の試みを行いました。多くの方の御参加をいただき、京都らしい「はんなり」した交流の場となりました。最初の鏡開きやクインテットによる演奏で会場の雰囲気は大いに盛り上がり、和気藹々の楽しい歓談の場となりました。

最後になりましたが、企画から運営に至るまで宮崎理事長をはじめ多くの学会員の皆様の御指導と御協力をいただきましたことに深く感謝いたしますとともに、御参加いただいた全ての皆様に改めて御礼申し上げます。また、学会運営に全力で役割を果たしてくれた当院職員ならびに看護学生のスタッフにも感謝している次第です。

日本医療マネジメント学会の益々の御発展と皆様の御活躍を祈念いたしまして、第13回日本医療マネジメント

学会学術総会の開催報告とさせていただきます。

来年は、佐世保で皆様方とお会いしましょう。本当にありがとうございました。



第13回学術総会学会賞表彰式

## 第12回日本医療マネジメント学会学術総会 会長賞を受賞して

京都市立病院機構京都市立病院 森本泰介

このたび、思いがけず第12回学術総会会長賞という荣誉ある賞を頂きました。第12回日本医療マネジメント学会学術総会の秦 温信学会長、本学会の宮崎久義理事長ならびに関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

私は平成17年からジェネラルリスクマネージャーとして病院全体の医療安全管理を担当してきました。さまざまな活動を通じて徐々に改善効果を見だしてきたつもりですが、その間消化器外科医としてせめて手術室関連の医療安全だけでも向上できないかと模索しておりました。毎週のように提出されるインシデント・アクシデントレポートの発生要因を分析する過程で、近年提唱され始めた臨床指標の概念を安全管理に導入できないものかと考えるようになりました。

(次頁へ)



ポスター展示会場



第12回学術総会会長賞を授与される森本泰介氏